

クロス文化

クロスカルチャー出版
101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-6
電話03-5577-6707
ファクス03-5577-6708
http://crosscul.com

IT教育最前線、 教育現場の改革

こころ、二年教育分野が大揺れである。文科大臣の方針が次々と変わり、来年から実施される大学入学共通テストに混乱が生じているためだ。雑誌『すばる』（二〇一九年七月号）は、教育が変わる、教育を変えろというタイトルで特集を組んでいる。大学入試改革、予算緊縮、格差拡大、管理型教育の推進とひずみに対して今求められるのは？一読して考えさせられることが多々あった。

さて、今回の冒頭エッセイは、小社の顧問的存在でもある横浜市立大学教授の高橋寛人先生（教育行政・日本教育史）に最近のIT教育について寄稿してもらった。

Society 5.0
日本政府は二〇一六年、第5期科学技術基本計画を策定し、未
来社会の姿としてSociety5.0を

提唱した。これまで人類は、狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) を経てきた。現在は、次の Society5.0 に移行している。最中である。Society5.0では、ビッグデータ、AI (Artificial Intelligence、人工知能)、IoT (Internet of Things)、ロボット、ブロックチェーン、第5世代移動通信システム (5G) など、様々な先端技術によってサイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) が融合して、人間の生活が革命的に転換する。

EdTech
では、教育や学校はどのよう
に変わるのだろうか。教育にイ
ノベーションを起こす新しい先
端技術をEdTech (エドテック)
という。EducationとTechnology
を組み合わせた造語である。高
度な先端技術が低コストで利用
できるようになるため、教育の
分野でも根本的かつ加速的に変
革が進行する。
Society5.0の時代には、コン
ピュータやスマートフォンをは
じめとする電子機器はもちろん、
あらゆるものにセンサーがつい
てインターネットとつながり、
膨大な情報がデジタルデータと
してクラウド上に蓄積される。
小学校・中学校・高校時代を通
じて、学校・家庭・塾での子ど
もたちの詳細な学習記録もクラ
ウド上に集積していく。スタディ
ログ (Study Log、学習履歴)
である。多くの子どもたちの膨
大なスタディ・ログの蓄積をAI
で分析することによって、教育・
学習の科学的な解析や研究が可
能になる。また、一人ひとりの
子どもについても、小学校入学
時あるいはそれ以前からの蓄積
された情報をAIが分析すること
によって、子どもの学習スタイ
ルや興味関心など、様々な特性
を解明できる。

また、オンライン授業によっ
て、遠く離れた学校の教室をつ
ないで合同授業をすることもで
きる。オンラインで授業を受け
られるのであれば、学校に行か
なくても自宅から授業に参加で
きるようになる。すでに大学レ
ベルでは、国内国外の講義をオ
ンラインで視聴できるMOOC (Mas
sive Open Online Course) が広
がっており、試験やレポートで
一定の水準をクリアすれば履修
証明も得られる。

近代に入って義務教育制度を
導入しようとする時、寺子屋方
式では膨大な人数の教師が必要
となってしまう。様々な年齢の
子どもたちに別々のことがらを
勉強させる場合、一人の教師が
一度に教えられる子どもの数は、
どんなに多くても10人が限界で
ある。そこで、同年齢の子ども
たち数十人をまとめて1つの学
級をつくり、一人の教師が同じ
内容を同時に教えるという一斉
授業の授業形態をとらざるを得
なかったのである。

一斉授業では、学級の児童生
徒一人ひとりの興味・関心や理
解度にあわせた教育を行うこと
は不可能である。しかし、EdTech
によって個別最適化の学習が可
能になれば、学級単位の授業は
必ずしも必要でなくなる。オン
ライン授業なら、前述のように、
学校に通わなくても授業を受け
られる。学級や学校の在り方が
根底から問い直されるのである。
個々の子どもにも最も適した学習
プログラムがオンラインで提供
されれば、世界中いつでも、ど
こにいても学ぶことができるよ
うになる。高校で習う古典文学
の勉強をする小学生や、大学院
レベルの数学を独学で学ぶ高校
生も出てくるだろう。他方、学
習意欲が乏しい子どもが一人
自ら学ぶことは困難である。そ
のような子どもたちは、学校に
来て、教師からの指導やげま

しを受けて学ぶことが必要となるであろう。

日常的な個人学習情報の集積

現在すでに、学びの記録を電子化して蓄積するツールとして、e-ポートフォリオ (e-Portfolio) が使われている。これは、生徒の試験の成績、探究活動の記録、生徒会、部活動、ボランティア、英語民間試験の記録や合格した検定、取得した資格などを記録するものである。近年、文部科学省は大学入学者選抜の際に、志願者の「思考力・判断力・表現力」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価することを大学に推奨している。そのために文科省は「ジャン・ポートフォリオ」をベネッセに委託して運営している。

しかし、このようなシステムが広がると、毎日の学習・生活の記録が学校の成績や進学・就職を左右するようになる。この点は、先に見たスタディ・ログも同様である。学習履歴が細かく記録されれば、高校の定期テストも大学入試も不要になると言われる。しかし見方を変えれば、日々の学習記録が蓄積されて成績評価や入学者選抜に利用されるのだから、子どもたちは毎日を抜けなくなってしまう。e-Portfolioなどを使ってスマホで本を読めば、それも自動的に記録

されるようになるかもしれない。検定の合格証明書や表彰状などは写真に撮って収録されるだろう。デジタル社会では、様々な個人情報がクラウド上に蓄積されるが、教育に関する情報も例外ではない。

STEAM

では、これからの時代の人間にはいかなる能力が求められるというのだろうか。

世界に目を向けると、Society 5.0で求められる学びをあらわす言葉として、STEAMが使われている。Science (科学)、Technology (技術)、Engineering (工学)、Arts (教養)、Mathematics (数学) の頭文字を並べたものである。Artsは芸術、美術、人文学などの意味であるが、広くとらえれば教養である。現実社会の様々な問題を解決するためには、文系・理系をこえた複数の学問領域からのアプローチが不可欠である。

文部科学省は二〇一九年六月に「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策(最終まとめ)」を策定した。この中で、新時代の教育では「膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を創造できる資質・能力の育成」が不可欠だと述べている。

知識はEdTechを利用した個別学習によって能率的に習得し、学校では主に教科横断的なプロジェクトを共同で探究することが求められる。

国家単位の教育制度の変容

以上、Society5.0に向けて教育がどのように変革するのかわ、AIやIoTなどのテクノロジーの側面から述べた。ほかに、外国人受け入れの拡大、外国につながる児童生徒の増加、IBスクール(インターナショナルバカロレア校)の新増設など、グローバル化による変革も同時進行する。国家単位の制度が揺らいでいく。社会全体を視野に入れた俯瞰的な考察がいま求められているのである。

参考文献

- 文部科学省「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策(最終まとめ)」二〇一九年八月
- 経済産業省「未来の教室」とEdTech研究会「第二次提言」二〇一九年六月
- ジョン・カウチ、ジェイソン・タウン「EdTechのデジタル教育」かんき出版、二〇一九年
- 佐藤昌宏「EdTechが変える教育の未来」インプレス、二〇一九年

左記は高橋寛人先生の小社刊単行本。



新刊案内

実践的で学術的価値の高い各校のカリキュラム冊子を復刻

【日本現代史シリーズ⑧】

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集

第2回配本 西日本編 全3巻

第4巻 近畿1(昭和2223〜2931年)

第5巻 近畿2(昭和2223〜2931年)

第6巻 中国四国、九州(昭和23〜29年)

■解説 金馬国晴(横浜国立大学教授・安井一郎(獨協大学教授) 体裁 B5判・上製・約一、九〇〇頁 ■本体 九〇、〇〇〇円

好評発売中



【特色】

- 戦後新教育期にコア・カリキュラムや三層四領域を作成した小学校、その紀要・冊子などの理論編と単元の具体例から抜粋
- 先行研究の無い学校の、今や一冊から、今日的な意義もあるページを中心に選定
- カリキュラム・マネジメント、横断的カリキュラム、総合的な学習、生活科、習得―活用―探究、アクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)などに示唆大。教職課程コアカリキュラムとの違いが顕著

推薦します

筑波大学名誉教授 山口 満

コア・カリキュラムは、戦後初期における民主主義教育の理念に立つ教育改革運動において、その先駆となる重要な役割を果たした。その理論と実践は、日本のカリキュラム改革の歴史の中に燦然と輝いており、現在の地点からみても、示唆に富む貴重な知見を提供しており、実に魅力的な内容を有している。

現在、我が国の教育界では、教育研究における理論と実践の往還を図り、その成果に基づいて、実践的な指導力を育む教員養成の改善や教師教育の高度化を図ることが喫緊の重要な課題となつている。「戦後初期コア・カリキュラム研究資料集」が、こうした教育研究と教員養成、教師教育の課題に的確に答えることが出来る最適の研究、教育のための資料として広く活用されることを期待し、推薦する次第である。

コア・カリキュラムとその運動の歴史的な意義は、主に、以下のような5つの点に求められている特色ある実践例の分析や比較を通して、これらの点について具体的に検討し、その成果や限界、問題点の所在を突き止

め、その後に残した課題を明らかにすることが、カリキュラム改革のための理論的、実践的な研究に未来への展望を拓くことになる。

1. 「三層四領域」論に見られるように、カリキュラムの全体構造の在り方を考えるための視点と実際の形態を明らかにした。
2. 「日常生活課程」「実践課程」の理論と実際の形態を示し、「教科外活動」や「特別活動」の本質に関する示唆を与えた。
3. 研究者と実践者との協働によるカリキュラム開発研究のモデルを示した。
4. 地域の特徴や学校の実態に対応した特色ある、個性的なカリキュラム開発を行った。
5. 「問題解決学習」の理論を支える実践的なカリキュラム形態を開発した。

□好評既刊案内□

【日本現代史シリーズ⑦】

戦後初期コア・カリキュラム研究資料集
第1回配本 東日本編 全3巻

- 解説 金岡国晴(横浜国立大学教授・安井一郎(駒澤大学教授))
- 体裁 B5判・上製・約二〇〇〇頁
- 本体 九〇、〇〇〇円
- 第1巻 北海道、東北、北関東(昭和22(30年))
- 第2巻 東京、南関東(昭和23(30年))
- 第3巻 北陸・甲信越・東海(昭和23(28年))

【推薦】水原克敏(東北大学名誉教授・元日本カリキュラム学会代表理事)・高橋寛人(横浜市立大学教授)



【日本現代史シリーズ⑥】

教育刷新審議会配布資料集 全4巻

- 解説 井深雄二(奈良教育大学名誉教授・大阪体育大学教授)
- 体裁 B5判・上製・約一〇〇〇頁
- 本体 二二〇、〇〇〇円

【推薦】寺崎昌男(東京大学・桜美林大学・立教大学名誉教授)・高橋寛人(横浜市立大学教授)

戦後教育改革の理念の生成を知らずして第一級の資料が完結。

【特色】

1. 教育刷新審議会第1回総会(第45回総会)及び第16特別委員会(第20特別委員会)で配布された資料を復刻。
2. 国立公文書館所蔵の「教育刷新審議会配布資料集等」(全5冊)及び「教育刷新審議会」(全1冊)を、全4巻に完全復刻。
3. 収録資料は、年月日に順に綴られていないことを踏まえ、詳細な目次(作成・配布年月日を含む)を付して資料全体を俯瞰。
4. 教育刷新審議会の活動、及び教育刷新委員会・教育刷新審議会関係資料集の完結の意義をわ

かり易く解説。

- 第1巻 簿冊1 128、第2巻 簿冊2・3 145、第3巻 簿冊4・5 218、第4巻 付録1 54計545のアイテムを収録。教育財政問題等を網羅。

《推薦文》

審議の脈動を語る資料

東京大学・桜美林大学・立教大学名誉教授 寺崎昌男

教育刷新審議会は、一九四九年(昭和二四)六月から一九五一年一月まで活動した審議会である。教育刷新委員会のもとを受けて戦後日本の教育改革の構想化と促進をはかった。教育刷新委員会が内閣総理大臣所轄だったの比べ、この審議会は総理府に「附属」することになり、また各省庁に対する権限も若干縮小された。しかし取り上げた議題は、教育財政関係諸法案、私立学校法案、大学管理法案、道徳教育のあり方、第二次合衆国教育使節団への対応と報告書『教育改革の現状と問題』(一九五〇年)の作成、そして次の中央教育審議会のあり方をどうするかにまでわたる重要議題ばかりであった。しかも外では、占領の終結に向けて教育行政の集権化が進み、戦後改革の再検討が行われていた。加えて、教育刷新委員会が構想した学制

改革や社会教育の新構想が実現するか否かを厳しい財政抑制政策のもとで検証する、という大きな任務も担っていた。ここに

公刊されるのは、この会で準備配布された約五〇〇点を超える資料である。諮問会議や審議会等の記録は、総会や特別委員会等の審議録があればまず十分だと思われる。しかし議事のベースにあるのは、統計や文書資料、法案の要綱や全文といった配付資料である。それに接することによって、後の世代の者は、審議の脈動ともいうべきものを探ることができる。教育刷新委員会の配布資料は高橋寛人教授によって解説された。今回は井深雄二教授によって解説が加えられている。かつて両会議の議事録復刻に参加した者の一人として、広く推薦したい。

【日本現代史シリーズ⑤】

教育刷新委員会総会配布資料集 全3巻

- 解説 高橋寛人(横浜市立大学教授)
- 体裁 B5判・上製・約一〇〇〇頁
- 本体 九〇、〇〇〇円

【推薦】寺崎昌男(東京大学・桜美林大学・立教大学名誉教授)



【日本経済調査資料シリーズ③】

明治大正期の西日本を中心とした企業情報
明治大正期 商工資産信用録

- 第1期 全15巻
- 解説 B5判・上製・約五〇〇頁
- 本体 第1回(全6巻)二二〇、〇〇〇円
- 第2回(全9巻)一九五、〇〇〇円

【推薦】阿部武司(大阪大学名誉教授・国士舘大学教授)

【日本経済調査資料シリーズ④】

明治大正期の東日本を中心とした企業情報
明治大正期 商工信用録

- 解説 B5判・上製・約一〇〇〇頁
- 本体 第1回(全4巻)二〇〇、〇〇〇円
- 第2回(全4巻)二〇〇、〇〇〇円
- 第3回(全4巻)二〇〇、〇〇〇円
- 第4回(全4巻)二〇〇、〇〇〇円
- 第5回(全4巻)二〇〇、〇〇〇円

※底本の『商工信用録』を発行した東京興信所の初代会長は渋沢栄一。

【推薦】商業分野の歴史研究にとつての必読文献―グローバル・ヒストリーの視点から―

神奈川大学経済学部教授 谷沢弘毅

近年の歴史学会では、グローバル・ヒストリーがブームとなっているが、その傾向を経済史分野に限ってみると、アンガス・マディソンによる一連の国際比較研究に代表される、超長期GDPの推計が脚光を浴びている。たしかに経済の発展を論じる際に、言葉はいくら重ねたとしても経済データを使った分析のほうが説得力は勝つていよう。ただしこのような歴史統計にとつ

クロス文化

クロスカルチャー出版
101-0064 東京都千代田区神田駿河町2-7-6
電話03-5577-6707
ファクス03-5577-6708
http://crosscul.com

大学改革最前線、 大学はいま

大学受験の季節ですが、今少子化により一八歳人口が急激に減少することで様々な改革が実施されようとしています。そのことは新聞など各種メディアが取り上げているのでご存知の方が多いかも知れません。

第一に、二年後に迫った二〇二〇年実施の大学入試共通テスト。今の大学入試センター試験のマーク式問題から記述式問題に変わります。特に国語や数学は記述問題になり思考力が試され、英語においては読む、書く、話す、聞く、の四技能が試される方向に切り替わります。「話す能力」も対象になります。受験のための暗記力がものを言う時代から高校で学んだ総合力と切りわけ思考力が試される時代に変わります。これが大学の入口の大きな問題です。

て来るという高等教育機関の危機です。間尺が合わなくなっているのです。一八歳人口が急激に減少するのに大学数はあまり減っていないのです。元総務相の増田寛也氏は、新聞のコラムで人口減少期の大学と題して次のように書いています。

「大学は、これまで増加の途をたどってきた。現在は国公立を合わせて七七〇校を越えている。一方で一八歳人口は、現在の約一二〇万人が二〇三〇年には約一〇三万人、四〇年には約八八万人と急激に減少する見込みである。約六〇〇校の大学は私学だが、その四割で定員割れが生じている。(中略)これからは質の確保のため思い切った大学の新陳代謝を促す必要がある」(毎日新聞二〇一七年一月二二日朝刊「時代の風」)

また、こういった現実的な大学が直面している問題に対して、

同じ毎日新聞のコラムで総合研究大学院大学長の長谷川眞理子氏は、大学という装置のタイトルで大学の存在意義を改めて書き記しています。

「さて、大学という装置である。昨今は大学改革の一層の促進ということが叫ばれており、国立大学法人は①世界のトップを目指す大学②特定の分野で活躍する大学③地域貢献を果たす大学、の三つから一つを選び、それぞれの目標達成のための計画をたてねばならない。現在の日本の状況にかんがみて、大学が変革をしなければならぬ部分は確かにある。世界的な一流大学であつても、社会の新たな潮流に適合するために、日々、改革に取り組んでいるのも事実である。しかし、私は、大学という社会装置がそもそもどのような由来でできたものであり、それが続いてきた理由は何なのかについての根本的な認識が、日本の社会にあまり共有されな

性だということではないだろうか。(中略)もともと大学という組織がなぜ出現し、なぜそれが連続と続いてきたのかの理由を知っておくことは必要だと思ふのである」(毎日新聞二〇一七年一月一九日朝刊「時代の風」)

これは大学存立の本質論にかかわる問題ですが、ここ何年か大学改革をめぐる、文科省が人文科学分野の学問はすぐに役に立たないもののように決めつけ改革を迫り、技術立国としての日本は自然科学分野の学問にもっと力を注ぐべきとの見解を示して物議を醸し出しましたことはまだ記憶に新しいです。すぐに答えの出ない人文社会科学の分野の研究者からは異論・反論が沸き起こったことはいまでもありません。要は実学を修めるだけにあるのではなく、教養を身につけるのも大学の使命でもあるからです。

この辺で私たちは長谷川眞理子氏が言うように、大学のあり方を大学の建学精神に立ち返って、そこから将来を見据えることも重要ではないかと考えています。そういった意味で示唆的な一冊が鹿島茂著「神田神保町書肆街考」(筑摩書房 二〇一七年刊)です。ここには日本の大学事始めの話が満載で、大学のあり方についてのヒントが隠されています。まさに一八歳人

口の激減は大学の存在を揺るがす大きな問題であることは確かです。すでに政府は地方活性化のために首都圏の大学の定員増を認めない方針を閣議決定しました。果たしてうまく行くのでしょうか。これからも大学問題には目を離せません。

左図は毎日新聞二〇一八年一月二〇日の朝刊、二三区大学一〇年定員凍結、東京一極は正法案年内成立、の記事の挿入図。

※東京圏は東京、千葉、神奈川県、埼玉の1都3県、総務省、文部科学省の統計による

項目	東京圏	全国	増減率
人口(2016年10月現在)	3629万4000人	1億2693万3000人	-28.6%
大学数(16年度)	223校	777校	-28.7%
学生数(16年度)	117万1386人	287万3624人	-40.8%

大学の個人研究費減少、これではまともな研究ができない...

今大学の予算の増減が話題になっていきます。そこで小社編集部では最近の新聞記事から大学関係の予算、研究費等の記事を拾って検証することになりました。記事を読んでいくことで傾向と対策がみえるか、少し考えてみたいと思います。丁度去年の今頃次のような記事が新聞に掲載されて関係者を驚かせました。

六割が年間五〇万円未満 大学など個人研究費 減額傾向

研究者の六割が大学など所属先から支給される個人研究費が年間五〇万円に満たないことが、文科省による研究者約一万人対象のアンケート調査(回答率三六%)で分かりました。「一〇万円未満」と答えた研究者も一四%おり、厳しい研究環境が浮かびました。調査は文科省の科学研究費補助金(科研費)の採択件数上位二〇〇位以内の大学や研究機関に所属する研究者を無作為抽出して行われました。

その結果、六割が年間五〇万円未満、八割が一〇〇万円未満でした。助教、講師、准教授、教授と職位が上がるにつれ額も増える傾向にありましたが、教授・准教授でも五〇万円未満が六割近くを占めました。人文社会系では八割が五〇万円未満で、理工系や生物学系の五割を上回りました。

一〇年前と比べて「減っている」とする回答は四三%で、「おおむね同じ」(二八%)や「増えている」(九%)を上回りました。国立大の方が私大より減る傾向が大きく、国立大では「おおむね五割以上減っている」との回答が二四%に上りました。文科省学術研究助成課は減少について「収入減などによる大学の経営環境の悪化が要

因の一つだろう」と説明。特に国立大では、主な原資となる運営費交付金が過去一〇年で一〇%減少しており、その影響が大きいとみられるといえます。(毎日新聞二〇一六・九・五)

また、『クロス文化』創刊第三号でも言及しましたが、国立大文系を縮小する動きが加速化する中、今度は文科省の計画に沿ったミッションの取組方についての評価が公表されました。

すべての国立大学に配分する運営費交付金(総額約一兆円)のうち、一分に相当する金額(約一〇〇億円)を大学から削り、各大学に再配分しました。運営費交付金の金額ではなく、一分の一〇〇億円を再配分するのです。だから、増減の幅が二〇%ぐらいでは、一つの大学の増減は多くても数千万円単位となりません。ミッションに十分に

に合った大学にはプラスしてよくなり、ミッション達成度がイマイチの大学にはマイナスにしたのです。この仕組みは、二〇一七年度も行われる予定です。「世界最高水準」を選択した一六の大学の再配分の結果は左の通りです。(木村誠著『大学大倒産時代』朝日新書二〇一七・八・三〇)

大学名	再配分率
大阪大	107.00%
京大	106.00%
東大	103.00%
京大	102.00%
東大	100.00%
東大	99.00%
東大	98.00%
東大	97.00%
東大	96.00%
東大	95.00%
東大	94.00%
東大	93.00%
東大	92.00%
東大	91.00%
東大	90.00%
東大	89.00%
東大	88.00%
東大	87.00%
東大	86.00%
東大	85.00%
東大	84.00%
東大	83.00%
東大	82.00%
東大	81.00%
東大	80.00%
東大	79.00%
東大	78.00%
東大	77.00%
東大	76.00%
東大	75.00%
東大	74.00%
東大	73.00%
東大	72.00%
東大	71.00%
東大	70.00%
東大	69.00%
東大	68.00%
東大	67.00%
東大	66.00%
東大	65.00%
東大	64.00%
東大	63.00%
東大	62.00%
東大	61.00%
東大	60.00%
東大	59.00%
東大	58.00%
東大	57.00%
東大	56.00%
東大	55.00%
東大	54.00%
東大	53.00%
東大	52.00%
東大	51.00%
東大	50.00%
東大	49.00%
東大	48.00%
東大	47.00%
東大	46.00%
東大	45.00%
東大	44.00%
東大	43.00%
東大	42.00%
東大	41.00%
東大	40.00%
東大	39.00%
東大	38.00%
東大	37.00%
東大	36.00%
東大	35.00%
東大	34.00%
東大	33.00%
東大	32.00%
東大	31.00%
東大	30.00%
東大	29.00%
東大	28.00%
東大	27.00%
東大	26.00%
東大	25.00%
東大	24.00%
東大	23.00%
東大	22.00%
東大	21.00%
東大	20.00%
東大	19.00%
東大	18.00%
東大	17.00%
東大	16.00%
東大	15.00%
東大	14.00%
東大	13.00%
東大	12.00%
東大	11.00%
東大	10.00%
東大	9.00%
東大	8.00%
東大	7.00%
東大	6.00%
東大	5.00%
東大	4.00%
東大	3.00%
東大	2.00%
東大	1.00%
東大	0.00%

個人研究費の減少や国立大学の再配分の問題は、大学経営がいかに難しい局面に晒されている証左なのかもしれません。二〇一八年から一八歳人口の減少が本格化するようですが、大学は国公私立大と問わず、生き延びるためにしばらくは知恵比べが激しさを増すようです。

大学市場を頼りとする小社など学術出版社も自ずとこの市場の縮小化をもろに受けます。キレのある企画力とか強力な販売力とか言いますが、やはり約八〇〇の大学、一六万人の研究者(人文社会系は約四万人)、市場規模約七〇〇億円の中身をよく分析して持続可能な学術出版ビジネスを再構築して展開する重要性を感じます。また、欧米やアジアの大学図書館へのアプローチも必要です。

それにしても今年の最大の話題は防衛省の予算額が、昨年度の六億円から今年は一気に一一〇億円と一八倍に跳ね上がったことです。軍事研究との結びつきが問題になっています。また、人文社会の結果の出にくい学問のあり方も問われて、予算配分の縮小化傾向が目立って来てお

りです。大学は何をするところでしょうかと改めて原点を見つめ直す必要がありそうです。(編集部注。「大学の個人研究費減少」の記事はタイトルを変えて第四号の記事を再録しました)

「クロスカルチャー」出版案内

新刊案内

詳説福島原発・伊方原発
年表 全一卷
著者 澤正安(福島大学名誉教授)
■体裁 B5判・上製・約五〇〇頁
■定価 二七,〇〇〇円
■発売 二〇一八年二月下旬

「推薦」
福島原発設置反対運動裁判資料・伊方原発設置反対運動裁判資料編集・解説者 福島原発設置認可取消行政訴訟弁護団団長弁護士 安田純治

国策神話に対する書世の書

私は、わずか八十六年の生涯のなかで、二つの神話とその成り行きを体験した。ひとつは天孫降臨の神話と大東亜共栄圏の大嘘。もうひとつは原発安全神話と原子力が地球の未来を救うという大嘘。

この二つの神話の共通点は、政財官界その他の指導者層がこぞって推進したこと、マスコミ・言論界も殆どがこれに同調したこと、そして多くの民衆が熱に浮かされたように積極的に踊ったこと、時流に迎合せず異議申立をして闘った少数の先覚者がいたこと、そして神話とその結末が悲惨な結果をもたらしたにもかかわらず責任の所在があまりに曖昧にされてもう一度繰り返されようとしていること等々。

もちろん、戦後は日本国憲法の下で、先覚者が獄死するほどの弾圧は受けなかったなど重要な違いはあるが、二つの神話の類似性には深く考えさせられるものがある。

澤先生の、福島原発年表の労作は、原発神話の愚を、具体的事実をもって活写し、いわゆる国策神話に対していかに対処すべきかを警告する警世の書であると思う。

一九七三年、福島原発設置のための県知事の公有水面埋立認可に対する異議申立以来、およそ弁護士生活の大半を、この年表に記載された出来事とともに過ごして来た私も、この年表によって今更ながら多くの教訓を得た思いである。

好評既刊案内

戦後教育改革の空白を埋める
第一級の史料を復刻
【日本現代史シリーズ⑤】
【推薦】寺崎昌男(東京大学名誉教授・立教大学名誉教授)

教育刷新委員会総会配布資料集 全三巻

解説 高橋真人(横浜市立大学教授)
■体裁 B5判・上製・約一、六〇〇頁
■定価 九七,〇〇〇円 好評発売中
岩波版『教育刷新委員会・教育刷新審議会合議録』(全三巻)にも盛り込まれていなかった配布資料が蘇ります。

【特色】

①教育刷新委員会の第一回総会(第八〇回総会(一九四六年九月七日)〜一九四八年一月二五日)配布の資料を復刻。
 ②国立教育政策研究所蔵の『戦後教育資料』中の教育刷新委員会総会配布資料を綴じた簿冊を全二巻に収めて復刻。
 ③収録文書の内容は、各特別委員会中間報告が多く、ほかに教育関係法案に関する文書。総会における大臣や次官などのあいさつ、『文部省統計速報』や『大学基準』及びその解説』などの文部省作成冊子他多岐にわたります。
 ④各文書について、簿冊の目次、簿冊の収録資料、教育刷新委員会総会会議録を照合して、収録の会期や文書の題名などをチェックした。その結果を解説で説明し、全体目次にわかりやすく解説。

最新刊案内

【日本現代史シリーズ⑥】

【推薦】寺崎昌男(東京大学・桜美林大学・立教大学名誉教授)・高橋寛人(横浜市立大学教授)

教育刷新審議会 配布資料集 全四巻

解説 井深雄二(大阪体育大学教授・奈良教育大学名誉教授)
 ■体裁 B5判・上製・約二、〇〇〇頁
 ■定価 二一九、六〇〇円

戦後教育改革の理念の生成を知らずして第一級の資料が完結。

【特色】

①教育刷新審議会第一回総会(第四五回総会)及び第二六特別委員会(第二〇特別委

員会)で配布された資料を復刻。

②国立公文書館蔵の「教育刷新審議会配布資料集等」(全五冊)及び「教育刷新審議会」(全一冊)を、全四巻に完全復刻。
 ③収録資料は、年月日に順に綴られていることを踏まえ、詳細な目次(作成・配布年月日を含む)を付して資料全体を俯瞰。
 ④教育刷新審議会の活動、及び教育刷新委員会・教育刷新審議会関係資料集の完結の意義をわかりやすく解説。
 第一巻簿冊一〜二八、第二巻簿冊二・三二〜四四、第三巻簿冊四・五二二八、第四巻付録一〜五四計五四五のアイテムを収録。教育財政問題等を網羅した資料群。

推薦文

東京大学・桜美林大学・立教大学名誉教授 寺崎昌男

教育刷新審議会は、一九四九年(昭和二四)六月から一九五一年一月まで活動した審議会である。教育刷新委員会のあとを受けて戦後日本の教育改革の構想化と促進をはかった。教育刷新委員会が内閣総理大臣所轄の総理府に「附属」することになり、また各省庁に対する権限も若干縮小された。しかし取り上げた議題は、教育財政関係諸法案、私立学校法案、大学管理法案、道徳教育のあり方、第二次合衆国教育使節団への対応と報告書『教育改革の現状と問題』(一九五〇年)の作成、そして次の中央教育審議会のあり方はどうするかにまでわたる重要議

題ばかりであった。しかも外では、占領の終結に向けて教育行政の集権化が進み、戦後改革の再検討が行われていた。加えて、教育刷新委員会が構想した学制改革や社会教育の新構想が実現するか否かを厳しい財政抑制政策のもとで検証する、という大きな任務も担っていた。ここに

公刊されるのは、この会で準備配布された約五〇〇点を超える資料である。諮問会議や審議会等の記録は、総会や特別委員会の審議録があればまずまず十分だと思われる。しかし議事のベースにあるのは、統計や文書資料、法案の要綱や全文といった配付資料である。それに接することによって、後の世代の者は、審議の脈動ともいえるべきものを探ることが出来る。教育刷新委員会の配布資料は高橋寛人教授によって解説された。今回は井深雄二教授によって解説が加えられている。かつて両会議の議事録復刻に参加した者の一人として、広く推薦したい。

戦争の惨禍をふまえて、いかなる改革方針が審議されたのか?

横浜市立大学教授 高橋寛人

アジア太平洋戦争(大東亜戦争)敗戦後約七年間、日本は連合国軍の占領下におかれ、超国家主義の除去と民主化を主要目的として様々の改革が行われた。GHQは、改革が占領終結後も日本に定着するよう、GHQの施策に矛盾しない限り日本側の自主性に委ねるという方針をとった。そのため教育の分野では、一流の教育者・学者をメンバーとする教育刷新委員会が設置された。教育刷新委員会はその後教育刷新審議会と改称され、一九五一年一月まで合計一四二回の総会のほか数多くの特別委員会が開催された。

近年、占領下の改革に対する批判や見直しの声が強まっているが、教育刷新委員会・審議会の委員たちは、戦争のもたらした大惨禍への悲しみと悔恨を抱きつつ、従来の誤った教育を改めて、平和と真理と個人を尊重する教育を実現するための教育改革方針を審議したのであった。いま、当時の論議を振り返ることの必要性はいっそう高まっている。(抜粋)

好評既刊案内

『ベル文学直接橋に何度も歩いた詩人の足跡』

西脇順三郎研究資料集 第一・二回、全六巻

解説 藤正宏(福島大学名誉教授) ■体裁 B5判・上製・約三、九〇〇頁 ■定価 一九二、二四〇円

近代日本語教科書選集 第一・二・三回全巻、全二四巻完結

解説 李長波(同志社大学准教授) ■体裁 B5判・上製・約四、四〇〇頁 ■定価 三九九、六〇〇円

移民ヒストリオグラフィ―書誌でみる北米移民研究―

解説 河野典史(元国立国会図書館員) ■体裁 B5判・上製・約二、六〇〇頁 ■定価 一六〇、〇〇円

『クロス文化叢書』 第一巻 互恵と国際交流

編集責任 矢嶋道文(国学院大学教授) ■A5判・上製・約四、三〇〇頁 ■定価 四、八六〇円

第二巻 メディア―移民をつなぐ移民がつなぐ

解説 A5判・上製・約四、二〇〇頁 河野典史(立命館大学教授)・日比嘉孝(名古屋大学准教授)編 ■定価 三、九九六円

【日本現代史シリーズ①】 福島原発事故の原点を明らかにする第一級資料

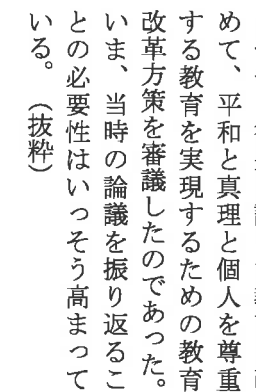
福島原発設置反対運動 裁判資料 全七巻

解説 安田誠治(弁護士)・藤正宏 ■体裁 B5判・上製・約四、一〇〇頁 ■定価 第一回全巻(全三巻)一六二、〇〇〇円 第二回全巻(全四巻) 九五、〇四〇円

【日本現代史シリーズ③④】 日本初の科学新説といわれた蘭語的漢語資料

伊方原発設置反対運動 裁判資料 全七巻

解説 安田誠治 藤正宏 ■体裁 B5判・上製・約五、二〇〇頁 ■定価 第一回(全四巻)一七二、〇〇〇円 第二回(全三巻) 九七、二〇〇円



【日本経済調査シリーズ③】
明治大正期 商工資産信用録

第一期 全一五巻
B5判・上製・約八五〇〇頁
第一回(全六巻)一四〇〇、四〇〇〇円
第二回(全九巻)二二〇〇、六〇〇〇円

【日本経済調査シリーズ④】
明治大正期 商工信用録

第一回(全四巻)一〇八〇〇〇円
第二回(全四巻)二九六〇〇〇円
第三回(全四巻)二九六〇〇〇円
第四回(全四巻)二九六〇〇〇円
第五回(全四巻)二九六〇〇〇円

【日本経済調査シリーズ⑤】
明解企業史研究資料集

第一・二・三回配本 全二〇巻
編集・解題佐々木 淳(龍谷大学教授)
題名B5判・約八、五〇〇頁
※第一回配本 旧外地企業編 全四巻、第
二回配本 総合商社鈴木商店関係会社編
全三巻、第二回配本 繊維産業編 全三巻。

左記は『図書新聞』(二〇一七年一月二二日 第三三三二号)に掲載された『明解企業史研究資料集』の編集・解題者佐々木淳先生の一文です。全一〇巻を終えての執筆です。

それぞれのテーマ
有用な企業資料等の集成
長尾文庫から蒐集した希少な資料を
編集

佐々木 淳(龍谷大学教授)
二〇一二年から足掛け五年にわたって刊行してきた『明解企

業史研究資料集』全一〇巻(クロスカルチャー出版)の編集を九月に終えたところである。この資料集は、旧外地企業編(第一回配本 全四巻)、総合商社鈴木商店関係会社編(第二回配本 全三巻)、繊維産業編(第三回配本 全三巻)の三編から成っており、いずれも基本的には龍谷大学深草図書館(京都市京都市伏見区)の長尾文庫から蒐集した希少な資料を編集したものである。龍谷大学の長尾文庫は、日本で有数の企業資料コレクションのひとつとして知られ、会社史だけでなく同業組合等の団体史、企業等の事業概要・定款・営業報告書・広告資料、調査機関等による特定の企業や業界の分析、企業関係者の伝記など日本経営史・経済史研究において資料的価値の極めて高い歴史資料が豊富に収められている。本資料集は、このような長尾文庫の特徴をふんだんに生かし、単に社史だけを並べて復刻するのではなく、それぞれのテーマに有用な企業資料等の集成を

目指したものである。各編の復刻資料を紹介すると、次のようになる。旧外地企業編(全四巻)：第一巻「台湾」(四点) 伊藤重郎編『台湾製糖株式会社史』(一九三九年)・台湾電力株式会社企画部編『社業現況』(一九三八年)・台湾拓殖株式会社文書課編『事業概観』(一九四〇年)・台湾銀行調査課『台湾に於ける金融概観』(一九三九年)、第二巻「朝鮮」(二点) 本田秀夫編『朝鮮殖産銀行二十年志』(一九三八年)・朝鮮金融組合連合会編『朝鮮金融組合の現勢』(一九三七年)、第一巻「満洲国」(二点) 昭和製鋼所銑鉄部編『昭和製鋼所廿年誌』(一九四〇年)・日満倉庫株式会社編『日満倉庫株式会社十年略史』(一九四〇年)、第四巻「満洲国・中国関内・南洋群島」(四点) 満洲興業銀行普通金融第一課信用調査係調『特殊会社並ニ準特殊会社調』(一九四一年)・中国連合準備銀行顧問室編『中国連合準備銀行五年史』(一九四四年)・中支那振興会株式会社『中支那振興会社並関係会社事業概況』(一九四〇年)・南洋拓殖工業株式会社『南洋拓殖工業株式会社―設立趣意書並ニ事業ト企業地ノ説明』(出版年不詳「一九一七年頃」)。

総合商社鈴木商店関係会社編(全三巻)：第五巻(三点) 神鋼タイムス編集室編『株式会社神戸製鋼所創立七九周年記念講演(桂芳男講演) 鈴木商店と金子直吉の人間像』(一九八四年)・柳田義一編『金子直吉遺芳集』(一九七二年)・森衆郎編『脩竹余韻 故西川文蔵君追懷録』(一九二一年)、第六巻(五点) 吉岡荒造編『精製樟脳史』(一九三八年)・岡田太郎太編『再製樟脳縁起』(一九四〇年)・再製樟脳株式会社『大正十四年二月 再製樟脳株式会社要覧』(一九二五年)、再製樟脳株式会社『大正十三年十二月 再製樟脳株式会社研究報告 第一回』(一九二四年)・再製樟脳株式会社『大正十五年七月 再製樟脳株式会社研究報告 第二回』(一九二六年)、第七巻(六点) 豊年製油株式会社二十年史編纂部編『豊年製油株式会社二十年史』(一九四四年)・天満織物株式会社編『創業三十周年記念帖』(一九一七年)・帝国人造絹糸株式会社調査課『創立十五周年記念人絹工業概観図』(一九三三年)・日本セメント株式会社編『明日への跳躍 [創業九〇周年]』(一九七三年)・日本セメント株式会社埼玉工場編『三〇年のあゆみ 想い出 一九五五〜一九八五』(一九八五年)・国際汽船株式会社『昭和七年一月一日現行国際汽船株式会社社則』(一九三二年)。

繊維産業編(全三巻)：第八巻・第九巻 帝國商工通信社編『日本織物総覧 全』(一九二八年)を分載、第一〇巻(四点) 東京信用交換所京都支局編『京都織物問屋総覧』(一九三三年)・東京信用交換所編『東京織物問屋総覧』(一九二九年)・原道之『満洲に於ける綿洋服及服地(調査第十七輯)』(一九三八年)・八木朝久編『平壤のメリヤス工業と平南の農村機業(調査資料第二十一輯)』(一九四三年)。

こうして、配本順に並べてみると、自分の講義(近代日本経済史)、ゼミ(財閥史・商社史)、研究(産地綿織物業)の順に、それぞれの内容に関連する分野に編集軸を絞っていることが、あらためて実感できて興味深い。最近になって、これまで三井物産などと比べると比較的手薄だと第二回配本の解題で書いた鈴木商店に関する本格的な歴史研究が相次いで公刊されており(齋藤尚文『鈴木商店と台湾樟脳・砂糖をめぐる人と事業』晃洋書房、二〇一七年三月、武田晴人『鈴木商店の経営破綻 横浜正金銀行から見たい側面』日本経済評論社、二〇一七年九月)、本資料集(第二回配本)が、今後の鈴木商店研究の発展に多少なりとも貢献できれば望外の幸せである。

〇〇〇〇編集後記〇〇〇

「クロス文化」第五号をお届けいたします。八歳人口の減少で大学の淘汰される時代が来るといわれています。教育や研究が学部・学科の垣根を越えて、学際的・学際的になっていくことが、海外の大学でも知られています。大学関係者の発展を期して増やして小社の内容見本から推薦文を掲載しました。(K)



クロスカルチャー出版
101-0064 東京都千代田区根岸町2-7-6-201
電話03-5577-6707
ファクス03-5577-6708
e-mail:crocul199@sound.ocn.ne.jp

大学の個人研究費減少、

研究ができない・・・

今大学の予算の増減が話題になっていきます。そこで小社編集部では最近の新聞記事から大学関係の予算、研究費等の記事を拾って検証することになりました。

記事を読んでいくことで傾向と対策がみえるか、少し考えてみたいと思います。ちょうど去年の今頃次のような記事が新聞に掲載されて関係者を驚かせました。

六割が年間五〇万円未満

大学など 個人研究費 減額傾向

研究者の六割が大学など所属先から支給される個人研究費が年間五〇万円に満たないことが、文科省による研究者約一万人対象のアンケート調査（回答率三六％）で分かりました。「一〇万円未満」と答えた研究者も一四％おり、厳しい研究環境が浮かびました。調査は文科省の科学研究費補助金（科研費）の採択件数上位二〇〇位以内の大学や研究機関に所属する研究者を

無作為抽出して行われました。

その結果、六割が年間五〇万円未満、八割が一〇〇万円未満でした。助教、講師、准教授、教授と職位が上がるにつれ額も増える傾向にありましたが、教授・准教授でも五〇万円未満が六割近くを占めました。人文社会系では八割が五〇万円未満で、理工系や生物学系の五割を上回りました。

一〇年前と比べて「減っている」とする回答は四三％で、「おおむね同じ」（二八％）や「増えている」（九％）を上回りました。国立大の方が私大より減る傾向が大きく、国立大では「おおむね五割以上減っている」との回答が二四％に上りました。文科省学術研究助成課は減少について「収入減などによる大学の経営環境の悪化が要因の一つだろう」と説明。特に国立大では、主な原資となる運

営費交付金が過去10年で一〇％減少しており、その影響が大きいとみられるといえます。
（毎日新聞二〇一六・九・五）

また、『クロス文化』創刊第三号でも言及しましたが、国立大学文系を縮小する動きが加速化する中、今度は文科省の計画に沿ったミッシェンの取り組み方についての評価が公表されました。

すべての国立大学に配分する運営費交付金（総額約一兆円）のうち、一％分に相当する金額（約一〇〇億円）を大学から削り、各大学に再配分しました。

運営費交付金の金額ではなく、一％分の一〇〇億円を再配分するのです。だから、増減の幅が二〇％ぐらいでは、一つの大学の増減は多くても数千円単位となります。ミッシェンに十分に比べた大学にはプラスしてよ

り多く、ミッシェン達成度がイマイチの大学にはマイナスにしたのです。この仕組みは、二〇一七年度も行われる予定です。「世界最高水準」を選択した一六の大学の再配分の結果は左の通りです。（木村誠著『大学大倒産時代』朝日新書二〇一七・八・三〇）

「世界最高水準を目指す国立大」の運営費交付金再配分率

大学名	再配分率
京大	108.50%
九州大	107.00%
東大	106.70%
北海道大	103.00%
東工大	102.00%
金沢大	100.90%
東洋大	100.20%
大産大	99.60%
東北大	99.30%
神戸大	97.70%
名古屋大	94.90%
筑波大	91.70%
岡山山	90.80%
広島大	88.10%
千葉大	87.80%
一橋大	87.60%

出所：文部科学省（2017年1月公表）

個人研究費の減少や国立大学の再配分の問題は、大学経営がいかに難しい局面に晒されている証左なのかもしれません。二〇一八年から一八歳人口の減少が本格化するようですが、国立、公立、私立大学と問わず、生き延びるためにしばらくは知恵比べが激しさを増すようです。

大学市場（企画と販売の両面）

を頼りとする小社など学術出版社も自ずとこの市場の縮小化をもろに受けます。キレのある企画力とか強力な販売力とか言いますが、やはり約八〇〇の大学、一六万人の研究者（人文社会系は約四万人）、市場規模約七〇〇億円の自身をよく分析して持続可能な学術出版ビジネスを再構築して展開する重要性を感じます。マーケットを広げる意味では科研費の分析は必須で、また、欧米やアジアの大学図書館へのアプローチも必要です。

それにしても今年の最大の話題は防衛省の予算額が、昨年度の六億円から今年は一気に一一〇億円と一八倍に跳ね上がったことです。軍事研究との結びつきが問題になっています。また、人文社会系の結果の出にくい学問のあり方も問われて、予算配分の縮小化傾向が目立って来ております。大学は何をするところでしょうかと改めて原点を見つめ直す必要がありそうです。

戦後教育改革の空白を埋める第一級の史料を復刻

【推薦】寺崎昌男（東京大学名誉教授・立教大学名誉教授）

【日本現代史シリーズ④】

教育刷新委員会総会配布資料集 全三巻

解題 高橋寛人（横浜市立大学教授）
■体裁 B5判・上製・約一、六〇〇頁
■定価 九七、二〇〇円（好評発売中）

岩版『教育刷新委員会・教育刷新審議会会議録』（全三巻）にも盛り込まれていなかった配布資料が蘇ります。

【特色】

①教育刷新委員会の第一回総会〜第八〇回総会（一九四六年九月七日〜一九四八年一〇月一五日）配布の資料を復刻。

②国立教育政策研究所所蔵の『戦後教育資料』中の教育刷新委員会総会配布資料を綴じた簿冊を全三巻に収めて復刻。

③収録文書の内容は、各特別委員会中間報告が多く、ほかに教育関係法案に関する文書、総会における大臣や次官などのあいさつ、『文部省統計速報』や『大学基準』及びその解説』などの文部省作成冊子他多岐にわたります。

④各文書について、簿冊の目次、簿冊の収録資料、教育刷新委員会総会会議録を照合して、収録の会期や文書の題名などをチェックした。その結果を解題で説明し、全体目次にわかりやすく解説。

教育刷新委員会メンバーには、南原 繁、芦田 均、安倍龍成、落京太郎、小宮隆隆、天野貞祐等リベラルな知識人がいました。

戦後教育を研究する上で不可欠の資料集。

【日本経済調査シリーズ⑤】 明解企業史研究資料集 第三回配本 全三巻

■編集・解説 佐々木淳（龍谷大学教授）
■B5判・総約二、五〇〇頁
■定価 一四〇、四〇〇円
■発売 二〇一七年・九・三〇

刊行にあたって

龍谷大学教授 佐々木淳
本企画は、好評を博しました
『明解企業史研究資料集―旧外地企業編（全四巻）』の第三回配本（全三巻）、『繊維産業編』として刊行いたします。

戦前期の日本では、江戸時代以来の伝統的な生活様式にもとづく根強い需要に支えられて、織物業や醸造業に代表される在来産業が地域的な特色を持ちながら展開していたことは、よく知られています。「繊維産業編」とする本企画では、この在来産業の中から織物業を取り上げ、地域ごとの製造業者や問屋などを網羅した昭和初期の希少な名鑑3点に加え、従来の繊維産業史ではあまり顧みられることのない綿洋服地の需給状況（満洲）やメリヤスその他の農村織物業の実態（朝鮮）に関する現地調査報告二点を蒐集して復刻。

巻編成は、織物関連業者を府県・旧外地（朝鮮・台湾・樺太・関東州）ごとに網羅した大部な名鑑『日本織物総覧』（一九二八年）を二つの巻に分けて収録

し（第八巻と第九巻）、二大織物集散地（京都・東京）の織物問屋を沿革も含めて網羅した名鑑二点と旧外地（満洲・朝鮮）の現地調査報告二点をあわせて第一〇巻としました。

今回の配本で復刻の対象とした五点の資料のうち第一〇巻に収めた三点（『京都織物問屋総覧』、『東京織物問屋総覧』、『平壤のメリヤス工業と平南の農村機業』）は、これまでの配本時と同様に「長尾文庫（龍谷大学深草図書館所蔵）」から蒐集したものです。「長尾文庫」は日本有数の社史コレクション



明解企業史研究資料集第三回 内容見本の一部

として知られていますが、会社史以外にも日本経営史・経済史研究で資料的価値の高い歴史資料が豊富におさめられています。今回も、この長尾文庫の特徴を生かし、繊維産業史の研究に有用な企業資料の集成を目指したものとなっております。

第八巻『日本織物総覧』（帝国商工通信社編刊 一九二八年）I（序・凡例・日本染織誌・東京・京都・大阪・神奈川・千葉・茨城・栃木・群馬・埼玉・山梨・福島・宮城・岩手・秋田・青森・山形）
第九巻『日本織物総覧』（帝国商工通信社編刊 一九二八年）II（新潟・富山・石川・福井・長野・静岡・愛知・岐阜・三重・和歌山・奈良・滋賀・兵庫・岡山・広島・山口・鳥取・島根・徳島・香川・高知・愛媛・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄・北海道・朝鮮・台湾・樺太・関東州）

第一〇巻『京都織物問屋総覧』（東京信用交換所京都支局編刊 一九三三年）『東京織物問屋総覧』（東京信用交換所編刊 一九二九年）『満洲に於ける綿洋服及服地（調査第一七輯）』（満洲輸入組合連合会商業研究部編刊 一九三八年）『平壤のメリヤス工業と平南の農村機業（調査資料第二一輯）』（八木朝久編 平壤商工会議所刊 一九四三年）

【特色】

- ① 戦前期の織物業に関する希少な名鑑や旧外地報告（満洲・朝鮮）を完全復刻。
- ② 織物関連業者を府県・旧外地（朝鮮・台湾・樺太・関東州）ごとに網羅した巨鑑『日本織物総覧』をI・II（八巻・九巻）に分けて収録。
- ③ 京都・大阪の織物問屋の沿革が分かる問屋名鑑に着目。
- ④ 戦前期の旧外地における綿洋服地の需要状況（満洲）やメリヤスその他の農村織物業の実態（朝鮮）が判明。

⑤ 大学図書館や公共図書館ではほとんど見ることができない希少な資料を蒐集。
以上が『明解企業史研究資料集』第三回配本の概要です。九月三〇日発売です。取材は九月はじめには出来上がりしますので、出来次第郵送させていただきます。日本経営史・経済史・産業史、金融史、日本近現代史の研究者、社史資料室、大学図書館や公共図書館にご案内ください。

【関連既刊】

【日本経済調査シリーズ⑤】
明解企業史研究資料集
第一・二回配本 全七巻
編集・解説 佐々木淳（龍谷大学教授）
B5判・総約六、〇〇〇頁
定価 三〇二、四〇〇円
一回・旧植民地企業編 二回・総合商社・本商店関係会社編

【新刊案内】

戦後教育改革の貴重な資料、第二弾
【日本現代史シリーズ④】
教育刷新審議会総会
配布資料集 全四巻
編集・解説 井深雄二（元奈良教育大学教授）
B5判・上製・約二、一〇〇頁
定価 二一九、六〇〇円
発売 二〇一七年一月下旬
【参考書誌シリーズ②】
詳説 福島原発・伊方原発
関係年表 全一卷
著者 澤正宏（福島大学名誉教授）
B5判・上製・約五〇〇頁
定価 二七、〇〇〇円
発売 二〇一七年一月下旬

【好評既刊】
福島原発事故の原点を明らかにする第一級資料
【日本現代史シリーズ①②】

福島原発設置反対運動
裁判資料 全七巻
編集・解説 安田治彦（元上野原正宏）
B5判・上製・約四、一〇〇頁
定価 一四〇、四〇〇円
一回配本（全三巻） 一九七、〇〇〇円
第二回配本（全四巻） 九五、〇〇〇円
日本初の科学訴訟といわれた岡崎の裁判資料

【日本現代史シリーズ④】
伊方原発設置反対運動
裁判資料 全七巻
編集・解説 安田治彦（元上野原正宏）
B5判・上製・約五、二〇〇頁
定価 第一回（全四巻） 一七二、八〇〇円
第二回（全三巻） 九七、二〇〇円
明治大正期の西日本を中心とした企業情報

【日本経済調査シリーズ③】
明治大正期 商工資産信用録
第一期 全一五巻
編集・解説 B5判・上製・約八、五〇〇頁
定価 第一回（全六巻） 二四〇、四〇〇円
第二回（全九巻） 二二九、六〇〇円
明治大正期の東日本を中心とした企業情報

【日本経済調査シリーズ④】
明治大正期 商工信用録
第一期 全一五巻
編集・解説 B5判・上製
定価 第一回（全四巻） 一〇八、〇〇〇円
第二回（全四巻） 二九、六〇〇円
第三回（全四巻） 二九、六〇〇円
第四回（全四巻） 二九、六〇〇円
第五回（全四巻） 二九、六〇〇円
ノルマル文字賞候補に何度も挙げられた詩人の初の資料集

西脇順三郎研究資料集
第一・二回 全六巻
編集・解説 澤正宏（福島大学名誉教授）
B5判・上製・約三、九〇〇頁
定価 一九二、二四〇円
第一・二・三回配本 全一四巻完結
編集・解説 李長波（同志社大学准教授）
B5判・上製・約四、四〇〇頁
定価 三九、六〇〇円

近代日本語教科書選集
第一・二・三回配本 全一四巻完結
編集・解説 李長波（同志社大学准教授）
B5判・上製・約四、四〇〇頁
定価 三九、六〇〇円
【参考書誌シリーズ①】
移民ヒトリオグラフィー
書誌である北米移民研究―
神楽司 啓（元国立国会図書館職員）
B5判・上製・約二、六〇〇頁
エンターテインメント出版社

【編集後記】
「クロス文化」第四号をお届けします。大学の知恵比べが激しさを増しております。販売の二支援よろしくお願致します。（k）

クロス文化

クロスカルチャー出版
101-0064 東京都千代田区猿樂町2-7-6-201
電話03-5577-6707
ファクス03-5577-6708
e-mail:crocul99@sound.ocn.ne.jp

国立大学文系が危ない

文科省は二〇一五年六月八日に全八六の国立大学、主に文学部や社会学部など人文社会学系の学部と大学院について、社会に必要とされる人材を育てられなければならない、廃止や分野の転換の検討を求めた通知を出した（「朝日新聞」二〇一五年六月九日付の朝刊）。これに対して人文社会学系の研究者間に波紋が広がっている。実学優先の方向転換で目に見える成果がなかなか出ない文系をあまりにも蔑にしたものだとの意見が出てい

る。国際日本文化研究センターの小松和彦所長は「人文学によって培われてきた知識が、人間にとって本当に必要か大いに疑問だ」と強調（「新潟日報」二〇一五年七月一〇日）。また、文科省の通知が出る前の二〇一五年三月四日付朝日新聞オピニオン欄で、経営コンサルタント富山和彦氏の「実学を教えるのは嫌だ、でも世界に通用するアカデミズムでは聞えないという人には、じゃ大学はいつたい誰のため、何のためにあるのですかと問いたい」と実社会に通じる教育の重要性を強調したのに対して、名古屋大学准教授の日比嘉高氏は、目先の利益にとらわれた改革が進めばどうなるか。教育は壊滅的な打撃を受け、社会は資産や出身地によって階層化し、格差が広がるでしょう。」と考える力の低力で危機を乗り越えらるることを力説。また、詩人の荒川洋治氏は、「言葉を通じて人間の基本的なあり方を伝え、人間性を失わずに思考力や想像力を育てる文学こそ、本当に役立つ実学でしょう。勘違いしているぞ、と強く言いたい」（二〇一五年七月二八日付「毎日新聞」夕刊）と語っている。そんな中、毎日新聞記者が書いた記事が示唆的だ。「てめえ、さしずめインテリだな」。映画「男はつらいよ」の寅次郎はこう言い放った。大学出の「知性主義」には権威と権力があっても、庶民の知恵のようなものが欠落していると腐したの

だ。今こそ、知能ばかりを重んじる「反知性主義」の「インテリ」に対し、同じセリフをぶつける時ではないか。そこに文系学部の将来を考えるヒントが隠されていると思う。

去年九月に発表された新たな「国の格付け」的性格の濃い三七のスーパーグローバル大学だが、英語での授業を増やすだけが強調された格好で本当にいいのか。もはや母語の日本語がローカル化し、植民地化されてしまふ恐れがないか。誰かの言葉ではないが、先の見えない時代だからこそ、さまざまな場面に対応できる人間力、感性や教養を育て、磨き上げていくことが肝要だろう。（乙）

この問題は小社も学術系出版社の末席に席を置く身として決して他人事ではなく、これからも大いに趨勢を見守っていきたいと思います。

9月の新刊案内

世界経済を牽引してきた中国経済に今黄色信号が灯され始めています。経済のグローバル化が叫ばれて日本もその波に乗り遅れまいと現政権が経済成長を最も重要な課題と取り組んでおりますが、ここに来て減速感が漂っております。

そんなとき歴史に学ぶことの重要性に鑑み、小社では新たに

小社ではこの文科省の通知を受けた国立大学文系統廃合の問題を掘り下げて、専門家が分かりやすく読み解いた本を緊急出版します。

リブレNo.4 エコーする（知）
光本 滋（北海道大学准教授）
著『国立大学に今こそ文系が必
要だ』（仮題）（A5版・本体
一、二〇〇円）二〇一五年一
月三〇日刊行予定。



東大正門。東大には大学のネームプレートがない！！

貴重な歴史資料の発掘に取り組みました。日本経営史・経済史分野の研究で、財閥系の三井物産や三菱商事に匹敵する総合商社のルーツとして高い関心を集めてきた、戦前の大商社鈴木商店に絞って、日本で有数の総合的な企業資料コレクションとして知られる長尾文庫（龍谷大学深草図書館所蔵）から、その関係会社の資料を中心に収集して復刻します。総合商社のルーツ

として一時であれ第一次世界大戦期に三井物産の年商を超えた鈴木商店、その多岐にわたる関係会社の事業概要・定款・営業報告書・広告資料・調査機関等による企業や業界の分析、企業関係者の伝記など日本経営史・経済史において資料的価値の極めて高い歴史資料群から専門家がセレクトした資料集です。

【日本経済調査資料シリーズ 5】

明解企業史研究資料

第二回配本 全三巻
編集・解説 佐々木淳（龍谷大学教授）
B5判・総約二、五〇〇頁
本体価格 一三〇、〇〇〇円

この資料集は好評を博しております『明解企業史研究資料集』―旧外地企業編（全四巻 本体一五〇、〇〇〇円）の続刊の資料集です。

第五巻 ① 神鋼タイムス編集室

『株式会社神戸製鋼所創立七九周年記念講演 鈴木商店と金子直吉の人間像』 ② 柳田義一編

『金子直吉遺芳集』 ③ 森衆郎編

『脩竹余韻故西川文蔵君追懷録』

第六巻 ① 吉岡荒造編（日本樟脳）『精製樟脳史』 ② 岡田太郎

太編『再製樟脳縁起』 ③ 再製樟脳株式会社『大正一四年二月

再製樟脳株式会社要覧』 ④ 再製樟脳株式会社『大正一三年一二

月 再製樟脳株式会社研究報告

第一回』 ⑤ 再製樟脳株式会社

『大正一五年七月 再製樟脳株式

会社研究報告 第二回』

クロス文化

クロス文化学叢書、執筆開始!

小社では創業一五周年記念企画として「クロス文化学叢書」を刊行致します。この度全一〇巻の刊行予定をまとめ、第一巻、第二巻の具体的な執筆依頼に取りかかりました。全体構成は「知の新たな問い」―日本と外国の双方からを基本枠組みとし、半年―一年毎に第一巻から第一〇巻まで刊行予定です。第一回配本は第一巻・第二巻の全二冊、以下第五回配本、全一〇冊で完結の予定。一小出版社としては企画規模が大きく、その構想の具体案が待たれておりましたが、この度その全容が明らかになり、具体的に動くことになりました。第一巻・第二巻編集責任者の関東学院大学矢嶋先生の絶大なるご支援ご協力のもと、基本構想から約四年、紆余曲折の段階を経て実現の目処がようやく立ちました。

クロスカルチャー出版
101-0064 東京都千代田区猿樂町2-7-6-201
電話03-5577-6707
ファクス03-5577-6708
e-mail:crocu199@sound.ocn.ne.jp

新たな知の問いがキーワード

全一〇巻のタイトルは次のような構成です。
クロス文化学叢書 全一〇巻
全体のコンセプト↓「知の新たな問い」―日本と外国の双方から―



ある文化講演会の懇親会での矢嶋先生

第一巻・第二巻 互恵関係の国際交流―日本と外国―(教養実用) 用(専門)
第三巻・第四巻 C P C 発
新学問のすすめ―日本と外国―(教養実用)

全体巻構成

第五巻・第六巻 女性学・史の現在―日本と外国―(教養)専門
第七巻・第八巻 クロス文化学或いは歴史文化が問うもの―「知の新たな問い」歴史、文学の領域を超えて―日本と外国―第九巻・第一〇巻 生かされてある文明の模索 環境



第1巻・第2巻概要

問題、自然災害、原発問題、貧困、差別：―役に立つ知の行方―
―日本と外国―
●判型A五判・フランス装・一巻当たり平均三〇〇〜三五〇頁。本体価格平均四、〇〇〇〜五、〇〇〇円。部数一、〇〇〇部。二〇一三年秋、第一巻刊行。半年毎に一冊ずつ刊行予定。

斬新なテーマ

国留学体験、日本の近代化と英国、R・H・ブライスの受容と業績、近代日本の中国人留学生。
■近現代・アジアゾーン
↓帝国日本における移動、日本の戦争責任に取り組むアジア市民の交流と連帯、ネパールもしくはベトナムにおける現地在住日本人と現地の人々の交流、日本ベトナム関係・歴史社会学、

原稿執筆上の目安

『クロスカルチャーシリーズ』原稿執筆上の目安
☆基本設定
①縦書き、一〇、五ポイント(明朝MS体)。一頁〓五二文字×二〇行〓一〇四〇字で二〇頁(四〇〇字×五〇枚)が基本です(写真・グラフを含む)。グラフ・写真等を入れますと、一か所で1000字〜3000字減ります。
②グラフ・写真は多用されなくてください。
☆引用について
① 出典と注は担当稿の末尾に明示してください。
② 執筆者・論文名・所収雑誌・出版年の表示は次のようです。
(例) 田中 文生「唐人の対日交易―『高野雜筆集』下巻所収「唐人書簡」の分析から」『経済系』二二九号、二〇〇六年。
(単行書もこれに準じます。)

第一巻・第二巻『互恵関係(レシプロシティ)の国際関係』二〇一三年秋刊行予定。執筆陣のエントリー、テーマがほぼ固まりました。テーマをアトラダムに記すと次のようになります。
■近現代・欧米ゾーン↓武藤山治の海外経営交流、日本資本主義の倫理と渋沢栄一、山本登と世界経済論、グルンドヴィヒと北海道酪産開拓者、上村成久の英GHQと日本国憲法。
■近世・前近代欧米ゾーン↓本多利明と海外交流論、江戸期蘭学者(通詞)と海外交流、幕末欧州行履本武揚と佐野常民、経済学・京都学派とワルラス経済学、スミス『国富論』に見るレシプロシティ、東西文化交流におけるレスペリウス派の動き。
■近世・近世以前アジアゾーン↓近世儒教世界と海外交流、鎌倉武家から見た日元関係と貿易、文中のはじめに略さない正式日略略略略

本語称を書き、カッコ内に略語、略称を入れ、文中2度目からは略語、略称をお書きください。

(例) 東南アジア諸国連合 (ASEAN)、日中友好議員連盟 (日中議連)

☆人名

①本多利明 (一七四三—一八二一)

②ルベール (Jean-Baptiste Colbert, 1619-1683)

☆グラフ・写真

グラフ・写真は通し番号を付し、写真はキャプションをお入れください。

☆「一」と「』」など

①引用文「」内の文献などは『』にお入れください。

☆数字の扱い

文中の数字は洋数字を使い、必要によって和数字、漢数字をお使いください(引用文は除きます)。1桁は全角、2桁は半角数字です。

(表記例)

一二頁 二一世紀 二〇〇九年

七月三十一日 一八九〇(明治

二二)年 三振

一五万四〇〇〇匹 一三〇万部

三分の二 一三m 一m三〇

cm 一二—一三円

十七条憲法 一人っ子 六畳一

間 一眼レフ

*西暦と年号ですが、ページが変わる範囲で、再度年号をお入れください。同一ページ付近の

近接西暦については、すべてに年号をつける必要はありません。読者の便宜を図ることを念頭に置いて頂ければ幸いです。

☆文章

文章は「である調」ですが、読者には一般の方(ご年配)もおられますので、平易な文章にて、難読文字にはルビをお願いいたします。(矢嶋道文)

◆テーマは日本と諸外国との関係をレシプロシティ(互惠性)の観点から捉え直し、過去、現在、未来の射程で俯瞰、その中心は、人間とモノの移動、交流を考え、埋もれたところにも光を当てます。この軸に研究者の個別的な研究成果を反映させることがこの企画の狙いです。

執筆者への原稿依頼は概要を入れ、封書で郵送完了(二〇一二年四月三日)。原稿締め切りは平成十三年三月末日。

付記。第一巻。第二巻で取り上げる人物については、読者の便宜を図り巻末に略歴を入れます。※教養・専門書出版にはリスクが伴うため、執筆者に買い上げのご支援をお願いする予定です。

出版人から一言(再録)

クロス文化学提唱の小社は、知の円環運動を射る三本の矢、異文化交流、文学、歴史統計の

分野を準備範囲に出版活動を続けて行きたいと考えています。その目玉がこのシリーズです。

Cross Culture Publishing Company (CPC) Three arrows Cross-cultural history literature and statistics

二一世紀は精神生活を豊饒にする世紀である。IT革命が進んだ今、書物の復権が叫ばれて久しいが、物質文明に侵食されてものが溢れ却つてものを見、感じる力が衰えている。人間の感らしやかな存在が人間の創造した物質によって自らを破壊しているようでもある。今こそ知の円環運動に射る矢が必要なきである。

このような事態に真の教養とは何かを地球規模で問いつつ真理は万人のために拓かれることを思い起こした時、私たちは新たな知の地平を構築する意味の重要性に気づく。

クロス文化学叢書は知の気球を飛ばして狭くなった地球をじっくり歩く試みとして発刊する。国と国を超え民族間の争いを超え私たちの精神生活が豊饒さを共有するとき、私たちは初めて share hands できるのである。そこには政治的経済的社会的文化的な位相から放れて地球人として自覚された人間がいる。

クロス文化学とは国際間の交流をはかるものさしである。換言すれば、地球人としての自覚をより進化する学問である。

異文化、多文化、多言語化の有り様を認識し相互理解を深めていく知の円環運動である。

出版界がかつてないほどの怒濤にある現在、あえて新実用教養叢書を発刊する意味は大きい。また、幾多の困難も予想されることも事実である。ここに出版人としての自覚を促しつつ読者諸氏の共同を期待するものである。

注目の書籍紹介

羽田 正著『新しい世界史へー地球市民のための構想』(岩波新書 二〇一一年九月刊 七六〇円)

本書は今までの西洋史から脱却して、世界史へー地球市民のための構想を打ち出し、新しい世界歴史叙述のあり方を提案した画期的な一冊です。世界歴史を今までのように一元的(権力者側)に捉えるのではなく、見方を変えて多面的に捉え直そうとする枠組み作りです。歴史認識のあり方を問い直し、「世界はひとつ」という視点から地球市民のための世界史を構想します。従来のヨーロッパ史観からの脱却を説いています。

いま歴史学者に必要なのは、学界の「常識」に忠実に従うことではなく、時代にふさわしい過去の見方を思い切つて提案することだと書いておられます。

新刊案内

福島原発設置反対運動 裁判資料 全三巻

西脇順三郎没後三十年記念出版 西脇順三郎研究資料集 全三巻

移民ビブリオグラフィー 一書誌でみる北米移民研究

近代日本語教科書選集 第一・二・三回刊本 全一四巻

クロス文化学 創刊第二号をお届けします。

編集後記

クロス文化

クロスカルチャー出版
101-0064 東京都千代田区神田錦糸町2-7-6
電話03-5577-6707
ファクス03-5577-6708
http://crosscul.com

二〇一一年七月一五日金曜、関東学院大学釜利谷校舎矢嶋道文研究室にて新たにクロス文化学叢書の一環として発刊するシリーズものの具体的な企画進行について、矢嶋先生と執筆者を再度確認し、刊行スケジュール、造本の概要、原稿依頼の手続き等のミーティングを開催。矢嶋研究室に事務局をおき渡辺院長があたる。

二〇一三年五月〜六月に刊行、上中下三冊、平均頁数二五〇頁、執筆者は二〇名。当初は二〇名で考えるが、最終的には二〇名で定着させる予定。執筆者の人は選は矢嶋先生が最終的に当たるが、現在ノミネートしている研究者は次の通り。
多ヶ谷、西原、佐藤、郷原、小林、鈴木、岩佐、橋本、伊藤、哲、三澤、伊藤綾、小室、三溝、仁木、西岡、西、落合、山本、竹村、金津、大須賀、シーコラなどの関東学院大学とそれ以外の大学の研究者で構成。

外国人も三、四名ほど入れる。(敬称略。苗字のみ掲載)
テーマは日本と諸外国との関係をレシプロシティ(互惠性)

の観点から捉え直し、過去、現在、未来の射程で俯瞰、その中心は、人間とモノの移動、交流を考え、埋もれたところにも光を当てる。この基軸に研究者の個別的な研究成果を反映させることがこの企画の狙いである。キレのある本(時代の精神が反映)が売れるためには出版支援のファンドも必要である。各種基金の一つ、JF基金の直近の応募内容を矢嶋先生、伊藤院長に調査依頼。

執筆依頼については、出版概要、執筆要項、原稿締切日、原稿料、執筆者献本、並びに買上条件などを盛り込んだ簡単な出版契約書を交わす(矢嶋先生ご提案)。執筆者への原稿依頼は概要を入れ、封書で郵送する。またはメールリクエストで発信することも考える(小社案)。
原稿依頼の発送は、二〇一二年春、原稿締切は二〇一二年二月予定。この辺の事務的なスケジュールについては次回の打ち合わせで詰める。

■編集責任者矢嶋先生の企画内容の概要は次の通り(二〇一〇年九月のメモから)。

日本と外国諸地域との交流史から、レシプロシティ(互惠性)を浮き彫りにし、考える。

人物間の交流(文献上の交流も含む)を捉える。交流は個人ベースからグループ組織間でも良い。便宜上、対象国(領域・関係)

を上げたが各国別に国際交流を捉えるわけではない。従って地域間交流でも構わない。たとえば、東アジア圏、中央アジア圏、ヨーロッパ圏、欧米圏など。但し、日本との関係を把握する。個々(グループ間)における、国際交流の成功例(共通性)を見出し、二一世紀国際交流の指標を導き出す。その場合、ミス『国富論』におけるレシプロシティ論をも含めて別冊(理論編)を最後に刊行する。執筆要項を作成する。

全五巻を全三巻に変更、一巻五名体制(全体で三〇〇枚、二五〇頁)。読みやすく、斬新的で刺激的な内容とする。組版例↓A五判上製フランス装(装丁者は美大卒)、九ポ 一頁(四三文字×一五行||六四五字)を目安。定価は二五〇〇円程度の予定だったが、二〇一一年七月一五日の打ち合わせで価格は四〇〇〇円以上に変更)。

出版人から一言

クロス文化学提唱の小社は、

知の円環運動を射る三本の矢、異文化交流、文学、歴史統計の分野を準備範囲に出版活動を続けて行きたいと考えています。その目玉がこのシリーズです。

二一世紀は精神生活を豊饒にする世紀である。IT革命が進んだ今、書物の復権が叫ばれて久しいが、物質文明に侵食され

てものが溢れ却つてものを見、感じる力が衰えている。人間の慎ましやかな存在が人間の創造した物質によつて自らを破壊しているようでもある。今こそ知の円環運動に射る矢が必要なきである。

このような事態に真の教養とは何かを地球規模で問いつつ真理は万人のために拓かれることを思い起こした時、私たちは新たな知の地平を構築する意味の重要性に気づく。

クロス文化学叢書は知の気球を飛ばして狭くなった地球をじっくり歩く試みとして発刊する。国と国を超え民族間の争いを超え私たちの精神生活が豊饒さを共有するとき、私たちは初めてtake handsできるのである。そこには政治的経済的社会的文化的な位相から放れて地球人として自覚された人間がいる。

クロス文化学とは国際間の交流をはかるものさしである。換言すれば、地球人としての自覚をより進化させる学問である。

異文化、多文化、多言語化の有機を認識し相互理解を深めていく知の円環運動である。

出版界がかってないほどの怒濤にある現在、あえて新実用教養叢書を発刊する意味は大きい

が、また、幾多の困難も予想されることも事実である。ここに出版人としての自覚を促しつつ読者諸氏の共同を期待するものである
(二〇〇八年六月二四日 起草)

【参考資料】

■□第一回〜第三回までの企画・編集委員会メモ。■□

(第一回)二〇〇八年五月二二日(木)一四時〜一六時(矢嶋研究室)

第一回企画・編集会議 於矢嶋

小社の編集委員兼代表が企画提案持込み矢嶋先生に相談した。

企画概要
クロス文化学人物叢書 『近世・近代 日本に來た外国人・外国に行つた日本人』

①クロス文化学人物叢書の創刊創刊の辞 六〇〇字

②この叢書の位置づけ↓学術書的に要所をおさえた新実用教養書

③一応国連加盟国をおさえた五ヶ国が目標

④概要は口絵カラー、日本来た外国人・外国に行った日本人、取り上げた国の人口、文化指標、経済指標、環境指標など基本的な統計資料などを記載

⑤A五判 平均約二五〇頁

⑥二〇一〇年一〇月第一回配本開始予定。

□(第二回) 六月五日(木)

一四時〜一六時(矢嶋研究室)
矢嶋先生ドイツの学会出席の傍ら企画メモで賛同者集めに奔走、効果ありでそのための報告会。第一回執筆人選に入る。

ロシア人、チェコ人も関心が大。

□(第三回) 六月二六日(木)

一四時〜一六時(矢嶋研究室)

まずは大学でこの企画の賛同・執筆者プロジェクトを編成、人選後科研費をとることがこの企画を遂行するためには先決。矢嶋先生新たに賛同者・執筆者依頼、ぞくぞく参加。只今外国人も入れて一五名。

□(第四回) 七月三日(木)

一四時半〜四時頃まで。第四回目の編集委員会を関東学院大学矢嶋道文先生の研究室で開催。テーマはその後の企画賛同者、科研費進捗状況などの打合せ。

出席者は編集責任者・コーディネーター役の矢嶋先生と小社編集委員。まずは科研費をパスするための作戦。

*この間、矢嶋先生が、経済学部田中史生先生を訪問し、国別

と地域交流との関係や、企画概要にある民力などの用語は検討の余地ありとのご指摘を頂き、林博士先生への伝言をお願いした。

□(第五回) 七月二四日(木)

午後。矢嶋道文先生と初めて慶応大学研究棟談話室にて一六時半から一七時五〇分まで開催。その後

の企画賛同者、国際交流基金の申請概要と適用範囲を国際交流基金の最新パンフレットから読み取り検討した。

出席者、編集責任者・コーディネーター矢嶋道文先生と小社編集委員。

案内書には、日本研究・知的交流のページに知的交流の推進、知的交流会議助成が書かれている。申請資格は海外および国内の非営利団体、大学、研究所など。助成対象事業は、(イ)多様性の理解と共生に資する取組み、(ハ) 地球的課題解決に資する事業、(ニ) 日本と世界が共通に抱える問題の解決に資する事業等がある。選考方針は、

一、多数国の関与、二、多層性、三、学際性の諸点を勘案。

申請締め切り↓結果通知は平成一九年の場合、一二月三日、結果通知は平成二〇年四月だった(今年度は未定)。

※交流基金申請に該当するメンバーには、政策決定者、地域住

民を含むとあり、検討の余地ありと矢嶋先生。それとヨーロッパの研究者を登用することも考慮した。例えば矢嶋先生はトムセン(チューリッヒ大)を推薦。刊行は、二〇一〇年向け、一人四〇〇字詰め原稿用紙で六〇枚

最大で五人↓三〇〇枚 二二〇頁から二五〇頁を目安とし、読み易く、斬新的で刺激的な内容を期待する。

※【例】A五判上製フランス装

九ポ 一頁↓四三字×一五行

↓六四五字↓を目安。

□(第六回) 八月一日(金)

一四時〜一六時四五分(矢嶋研究室) 橋本和孝先生、郷原佳以先生の研究室を矢嶋先生と小社編集委員で表敬訪問。企画趣旨を伝え、科研費申請の模索と新たな学術研究助成の方法を探る。

*この間、矢嶋先生が経済学部の田中史生先生を葉山セミナーハウスに訪問、科研費申請のあり方を相談。日本を基調とする視点を捨てる必要とアドバイスを受ける。科研費については、文学部教員を分担者に、それ以外を研究協力者にする。このメリットを話される(協力者にも申請者から出張費、資料費等が配布される)。

(第七回) 第一三回は次号に掲載

【付記】この一三回後に企画進行の開催は一時沈思、中断した。

□新刊案内□

移民ビブリオグラフィ―

―書誌でみる北米移民研究―

神繁司著(元国立国会図書館職員)

【推薦】坂口満宏(京都女子大

学教授)・井上真琴(同志社大

学企画課長)・奥泉榮三郎(シ

カゴ大学上席司書)

■体裁 B五判・上製・約四〇〇頁

■定価二一、〇〇〇円(本体二〇、〇〇〇円+税)

エントリー文献約六三〇件、注・補遺文献に解題を付す。欧文文献収録で双方向な理解そしてメディア史にも至便。

この一冊で移民の全てが分かる、恰好のレファレンスブック、好評発売中!

近代日本語教科書選集

第一・二・三回配本、全一四巻完結

編集・解説李長波(同志社大学准教授)

【推薦】木田章義(京都大学教授)

■体裁 B五判・上製・約四四〇〇頁

■定価三八八、五〇〇円(本体三七〇、〇〇〇円+税) 配本ごとの分売可

◆第一回全五巻 定価一二六、

〇〇〇円(本体一二〇、〇〇〇円+税) ◆第二回全五巻 定価一三六、五〇〇円(本体一三〇、〇〇〇円+税) ◆第三回全四巻 定価一二六、〇〇〇円(本体一二〇、〇〇〇円+税) 近代日本語の成立過程が英語、中国語で書かれた日本語の教科書から明らかに。

珠玉の文献群、好評発売中。

□好評既刊案内□

米国司法省戦時経済局対日調査資料集

全五巻 ■編集・解説三輪宗弘(九州大学教授) ■定価一五七、五〇〇円(本体一五〇、〇〇〇円)

□□□編集後記□□□

企画情報ミニ新聞『クロス文化』の創刊号をお届けします。いかがでしたでしょうか。

新企画を産み出していく過程が、発想↓議論↓晒すこと↓再吟味↓新たな展開↓本格的に始動等と段階を踏まえて行くことの要諦を理解して頂けたら光栄です。

矢嶋先生ほか関係の皆様方にはご協力ご支援を頂き感謝申し上げます。(K)